

噛み合わせ機能を創造する杉元敬弘の院内新聞

FUNCTION

VOL. 1

歯科医が施さなければならないのは
「修理ではなく治療」です。

Contents

患者さまへ	Message
杉元の常識	Opinion
杉元の歴史	Background
周囲の視線	Around
お知らせ	News
患者さんの声	Voice

患者さまへ

こんにちは。杉元敬弘です。

この度、発行することになりました。この新聞は、主に、私が常日頃から感じていること、関心を寄せていること、患者さまに知つておいていただきたいことなどをお伝えしていくたいと思っています。

私が発信したことに対する対して、患者さまが疑問に思われる点、不安に感じられる点などがございましたら、どしどじと意見をください。皆さんのお気持を充分に知り、理解し、診察時間ではできないようなコミュニケーションをとることができれば幸いです。

さて、まずは、この新聞の名を「FUNCTION」（機能・動き）とした背景についてお話ししたいと思います。

私が、同業界の講習会などでよく口にしている言葉は「修理ではなく治療」です。人間は、口腔内の状態が健康であれば、しっかりと食べ物を咀嚼したり、发声することができますが、問題があると、これらの機能を失ってしまうことがあります。そして、そのような状態にあると、口腔内に限らず、身体のさまざまな部位に影響を及ぼすことがあります。私が言う「治療」とは、口腔内を理想的な状態にすることによって、患者さまの身体の機能を取り戻すことになります。私はこの役割を果たすために専門分野である「噛み合わせ」の探究を続け、歯科医師としての知識や技術、センスの向上に務めたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。

Message



インプラント治療を成功させるポイントは、「治療」の前の「診断」にある。 単に歯を入れるだけなら治療とは呼べない。

Opinion

杉元の常識 「インプラント」

画期的な治療法として注目されているインプラント治療。年間200本の施術をする杉元氏は、独自の見解を持つ。

——インプラント治療といえば、充分なヒアリング、手術の内容、安心、安全、アフターケアといった言葉をよく耳にしますが、先生がインプラントの治療をされる際、特に大事にされていることは何ですか？

治療の前に「診断」をするということですね。歯を失ったということは、歯を失った理由があるはずなので、必ずその理由を把握してから治療に臨むようにしています。

——具体的な症例で教えてください。

歯周病で歯が抜けたケースであれば、なぜ歯周病になつたかを診るということです。人間の身体は不要なものを排除するようになりますから、口腔内が「この歯はいらない」と判断すれば、抜けて当然だということになります。だから、1本の歯でも、噛み合わせを含め、全体のバランスを診なければなりません。そうしなければ、歯のないところに歯を入れるだけでは、なんらかのトラブルを招く可能性が高くなります。

Column インプラントとは何か？

歯科で言う「インプラント」とは、加齢や事故や虫歯などで歯を失った部分の顎骨に、人工的に作製された歯根を埋め込むこと。人工歯根を骨と結合するため、「第二の永久歯」とも呼ばれる。また、1、2本ではなく、一度に4本（6本の場合もある）の歯根を埋め込むことで、上・下の片頬のすべての歯に義歯を入れられるという治療法もある。

インプラントが普及する前は、歯を失った際の治療として、入れ歯やブリッジしかなかった。が、入れ歯は見た目も悪く、頻繁に洗浄をしなければならないので虫歯や歯周病になりやすいなどの欠点がある。さらに、ブリッジは、失った歯の左右の歯を削り、連結した義歯を入れるので、失った歯を「ある」ように見せることはできるが、健康な歯でも削らなければならず、また、失った歯が負担するはずだった力をほかの歯が補うことから、トラブルを招きやすいという欠点がある。

インプラントは、こういった入れ歯やブリッジのデメリットを解消できるものとして注目されるようになり、治療を受ける人も、治療を施す医院も急増しているが、「試しにしてみる」ことはできないため、医院選びが重要なポイントとなる。

——なるほど、だから「治療の前に診断」が必要だとおっしゃのですね。

歯と身体は別だと思われがちですが、実は非常に深い関係性があります。だから、噛み合わせがほぼ機能していない方に、診断をせず、突然インプラントを入れると、身体がビックリします。実際、口腔内の状態が悪いまま数本のインプラントを入れられて、身体が機能しなくなられるケースもあるんですね。

——ほかに、先生が重視されている点はありますか？

本来の目的を見失わないということです。インプラント治療というのは、「歯を入れること」が目的ではありません。「歯を入れること」によって、機能を改善させること」が目的です。

だから、失った機能を得る手段を検討し、結果として適切な手段がインプラント治療だと診断した場合、患者さまにインプラント治療をお奨めしています。

——江口先生にどうて杉元先生は、どのよう
な存在なんですか？

杉元の歴史

— 幼少期 —

1968年3月5日、小豆島で産声をあげた杉元氏。父、母、兄の4人家族の末っ子で、普通に学校の勉強をしながら、バンド活動をするなどして、いぐつべ一般的な青年として育つた彼は、「小さいときのことはほとんど覚えていない」と話すが、ひとつだけ、ハッキリと自覚していたことがあると言った。

「僕にはちょっと変わった力があったんです。どういうわけか、携帯電話を使うようになつてその力はなくなりましたか、目で見た活字などをすべて画像のように記憶することができたんです。だから暗記の多い学校の勉強で困ることはなかつたし、周囲から落ちこぼれ扱いされることもなかつた。けれど、いつも、兄にだけは憧れの眼差しを向けていました。だから、幼い頃の自分は、常にスポットライトを浴びている優等生の兄の影に隠れているような存在だったと思います」

そんな杉元氏が、なぜ歯科医師への道を歩むことになつたのか。その時期のこと、きつかけについて、彼はあつさりとこう話す。

「幼少期から、兄は医師、僕は歯科医師になるものだと父親に決められていたので、当然のことだと思っていたんです。それに、情報が入ってきていく田舎にいましたしね。ほかの職業を考えたことは一度もないんです」

父親の意志については、こう言う。

生まれてからこれまで ほかの職業を考えたことは 一度としてないんです。

周囲の視線

スギモト歯科医院の隣にある矯正歯科クリニックの院長、江口公人氏は、杉元氏と治療上で連携プレイをとつて10年近くになる古いパートナー。誰よりも彼を知っていると言つても過言ではない江口氏は、彼をどう見てきたのか、どう見ているのか！？

——長年一緒におられるので、思い出しにくいと思いますが、江口先生は杉元先生にどのような第一印象を持たれましたか？

ひと言でいえば、「きれる」。自論を持つて、簡単に人に迎合しない。なんでも自分で選択していくタイプですね。常に完璧を求める彼には、「負け」とか「妥協」という言葉は似合わない。その点については、今も昔も変わりませんね。

——ちなみに、江口先生が、歯科医師に必要なと思われる条件は？

持久力と探究心です。

——杉元先生はその要件を満たしておられましたか？

十二分に満たしていたと思いますよ。特に探究に関しては、惜しみなくといった感じですから。

**歯科医師の要件は持久力と探究心。
彼は働き始めた頃から、
既にどちらも満たしていました。**



江口 公人氏

1962年、4月生まれ。徳島大学卒業後、京都の歯科医院に勤務。そこで杉元氏と出会い、約10年前、杉元氏と同時期に京田辺市で「江口矯正歯科クリニック」を開業。

自分とは違う存在ですね。彼は知りたいことの答えを探してどこまでも掘り下げていくタイプ。僕は、答えを出しながら、横に幅を広げていくタイプ。それに、彼はいつも忙しくして、いたいほうだけれど、僕はどうやらかというのんびりして、小さいことといえば、彼はオモチャとか遊ぶものが大好きだけれど、僕はそうじゃない（笑）。

——そんなおふたりが、なぜ連携プレイをとられるようになったのか、とても興味深いです。続きは次号で聞かせてください。

① アンケートのご協力をお願いします!

スギモト歯科医院では、「より満足していただける医院」を考えるために、アンケートを実施します。ご協力いただきました患者様には歯ブラシ1本を進呈させていただきます。お手数をおかけしますが、ご協力のほど宜しくお願ひいたします。



② お手紙をお待ちしています!



院内新聞「FUNCTION」では、通院されている患者さまから、杉元医師へのご質問やご意見、治療の体験談など、歯に関するお手紙を募集しています。新聞に掲載させていただいた方には、香川で育った杉元医師から、オススメの半生うどん「かな泉」の鎌田醤油のうどん醤油付き「ぶっかけうどん」を進呈します。ふるってご参加ください！

▲「(株)うどんの店 かな泉」
<http://www.kanaizumi.co.jp/>

[応募方法]

お手紙やお葉書に、氏名・年齢・性別・電話番号・ご住所を明記の上、医院のポストに直接投函いただくか、必要分の切手を貼ってご郵送ください。書式や文字量は自由です（作文のみ、800～1200文字の文章量）。匿名希望の場合は、「匿名希望」とご明記ください。

※ご掲載させていただく際、内容は変えませんが、一部文章を変更させてもらう場合があります。ご了承ください。

また、お送りいただいたお手紙やお葉書はお返しできませんので、ご注意くださいませ。

医療法人 幸加会

スギモト歯科医院

〈 電 話 〉 0120-76-3718 (0774-64-2424)

〈 F A X 〉 0774-64-2266

〈 診 療 時 間 〉

(月～金) 10:00～13:00 / 14:00～20:00

(土) 10:00～13:00 / 14:00～18:00

〈 休 診 〉 日曜日、祝祭日

〈 主 な 設 備 〉 完全個室、オペ室完備、駐車場

〒610-0331 京田辺市田辺中央 1-2-11 アトリオパーク 2F

◀ VOICE 患者さまの声

私は、幼い頃から歯が悪く、歯医者さんへ通い続けてきました。引っ越しなどで通院先を変えなければならないときは、知りあいから勧められる病院へ行くということを繰り返していました。ところが、あるとき、「いい歯医者さん」を選ぶ尺度が人によって異なると知りました。

たとえば、歯医者さんが怖いところだと感じている方は、「いい歯医者さんですよ」の後に、必ず「痛くないし、怖くない」と付け加えられます。また、被せたものが取れやすい歯医者さんで苦い思いをされた方は、「被せたものや結めたものが取れない歯医者さんだ」と勧めてくださいます。

しかし、10代半ば。自分が望んでいるのは、なにが悪いか、どうすればよくなるかをロジカルに説明をしてもらえること、自分が納得できること、そのうえで治療をしてくださることだとわかりました。どこの歯医者さんに移っても「前の先生の処置が悪かった」とおっしゃるだけで、「ではどうすればいいか」という説明を受けられなかったからです。

杉元先生に診てもらつて嬉しかったのは、自分の歯の噛み合わせが悪いことがわかったこと、持病の腰痛が悪化した時に限つて歯の噛み合わせのバランスが悪くなつていて教えてもらったことです。歯の噛み合わせが悪いという自覚もなければ、歯と腰痛の症状に関係性があるなどと思ってもみなかつたので、驚きました。

治療は終わつていませんが、噛み合わせを変えてもらうことで、肩こりがマシになつたり、腰痛がなくなってきたことを体感しています。よくなるのかと気分が減入ることもありましたが、杉元先生が「僕にしか治せない」「必ずよくなる」とハッキリと言ってくださつて安心しています。先生が噛み合わせ専門の先生だとは知らず、スギモト歯科医院にたまたま飛びこんだ私は、本当にラッキーでした。

京都在住／M・A

